

日本、中国、韓国における高齢化とバリアフリー環境整備に関する研究

研究概要

本研究は急激に進展する東アジアにおける高齢化を見据えた居住環境のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に関する研究であり、高齢化に対応する生活環境整備の具体的提案を目指している。



ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

高橋 儀平 教授 Gihei Takahashi

研究キーワード: 東アジア 高齢化 バリアフリー ユニバーサルデザイン

URL: <http://researchmap.jp/g0000172036>

研究シーズの内容

本研究は、①日本、中国、韓国の都市部において 1990 年代後半より急激に進展する少子高齢化を背景に、住宅、生活環境のバリアフリー化の動向を把握し、その法制度的対策と現状の到達点を検証すること、②これらの動きに対して日本の貢献がどこにあるか、あるいは日本のバリアフリー・ユニバーサルデザイン技術の移転が可能であるか、③東アジア地域におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の動きを促進する整備手法開発、基準の標準化について研究を進めている。

中国、北京では 2008 年北京オリンピックを契機にバリアフリー・ユニバーサルデザインの法制度が進展した。しかし高齢化に対する住居対策、高齢者施設整備、都市の総合的なバリアフリー化では課題が多い。韓国、ソウルでは 2000 年以降市民意識の高揚と共に急速に都市施設のバリアフリー化、関連法制度が進展している。ソウルでは地下鉄など交通機関を始め住宅や都市施設のバリアフリー化が進展、2014 年インチョンアジア大会競技施設にも大きく貢献した。しかし都市の面的整備の面では困難な課題も少なくない。本研究ではこうした東アジア地域でのバリアフリー・ユニバーサルデザインの経験交流と今後の高齢化に対応する居住環境整備について具体的かつ多面的な問題解決の手法を研究している。本研究は科研費補助研究(2009 年～継続)の一部である。



○北京市内: 共同住宅の改修、伝統的住宅「四合院」の中庭、住宅内



○ソウル市内: アジアで最もバリアフリーが進んだ地下鉄、バリアフリー認証建築物、住宅団地

活用例・産業界へのアピールポイント

東アジア地域のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の技術や高齢社会の進展に対する都市、住宅、福祉施設整備の支援

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

日本と海外における BF,UD の系譜に関する比較研究-日本・中国・韓国を中心に-: ライフデザイン学 2015.3